

昭和25年4月 日本鐵鋼協會第35回通常總會に於ける表彰者

- 第 20 回 服部賞受領者推薦理由書
 第 17 回 香村賞受領者推薦理由書
 第 13 回 使賞受領者審定書
 第 12 回 渡邊賞受領者推薦理由書

服部賞牌受領者

(薄鋼板製造技術の向上並に鐵鋼生産復興に關する功績)

日本製鐵株式會社取締役 八幡製鐵所技師長

工學士 須永巳代次君

君は大正12年3月東京帝國大學工學部冶金學科を卒業するや直ちに八幡製鐵所に入職し、薄板掛に勤務し、同14年6月珪素鋼板掛及び鐵力掛に勤務す。昭和2年1月薄板工場主任を命ぜられ昭和4年1月鐵力工場主任を命ぜらる。次で昭和5年4月海外留學を命ぜられ海外に於ける薄板及び鐵力の生産狀況を視察し同年11月歸國す。次で鐵力の生産増強を要求せらるゝや昭和7年洞岡鐵力工場の建設を擔當し、昭和8年10月作業開始に至る。昭和9年3月鋼板部第三製板課長、昭和17年4月第一鋼材部長となり昭和20年12月技師長を命ぜらる。其の間主として薄板及び鐵力板の生産に従事し、品質改良、生産増強、設備の改善に意を用い、國內需要に應ずると共に鐵力及び珪素鋼板の輸出を可能ならしめ我國薄板製造の先驅者としてその功績は極めて甚大である。又戦後に於ける製鐵業の萎靡沈滞せるとき製鐵業復興に専念し臨機に種々適切なる方策を探り極めて急速に生産を回復し國內關連産業に寄與せし功績極めて顯著である。仍つて同君は服部博士記念資金取扱規則第7條に依り服部賞牌を受ける資格充分なものと認める。

服部賞金受領者

(鋼管の製造並にその防錆技術の進歩に關する功績)

日本鋼管株式會社 川崎製鐵所 検査部長

工學士 青木不二男君

君は昭和5年3月東京帝國大學工學部冶金學科を卒業後同6年3月日本鋼管株式會社に入社し川崎工場第3製管掛として勤務し、爾來同所にありて昭和16年1月検査掛副主任同19年2月製管第二課長同7月検査課長兼務同20年11月検査課長を経て同23年2月現職に累進したものであり爾來鍛接管製造、引拔管製造部門を歴任し後轉

して検査部門を擔當し今日に至つたものである。この間水道用鋼管の防錆に關する研究を行ひ特殊アスファルトコンパウンドによる焼付法を考案し、地下埋設鋼管の耐久性を増加し、本邦の水道用鋼管の普及に貢献した。又鋼管の冷間引拔きの際使用する潤滑油として魚油石鹼を發明し特許を得且つ酸洗液の酸度及び酸化鐵の迅速測定法を考案し冷間引拔鋼管製造の作業能率の増進と製品の品位向上に資すること極めて大であつた。検査部門に轉ずるや永年の經驗により適正なる検査規格を確立し鋼管の品質向上と後進の指導に盡力するところ大である。かくの如く同君は學理を實驗に應用し種々の考案をなし技術上貢献せること甚大である。仍つて同君は服部博士記念資金規則第8條に依つて服部賞金を受ける資格充分なるものと認める。

服部賞金受領者

(平爐技術の改善進歩に關する功績)

新扶桑金屬工業株式會社和歌山製造所

製造部次長兼製鋼課長 工學士 里井孝三郎君

君は昭和8年4月九州帝國大學工學部冶金學科卒業後直ちに株式會社住友製鋼所に入り昭和20年11月より同23年5月まで住友金屬工業株式會社鋼管製造所製造部長代理兼製鋼課長として勤務した外は終始和歌山製造所に在りて現にその製造部次長兼製鋼課長の要職にあり、君は頭初住友製鋼所に入所以來製鋼工場造塊部門を擔當し耐火煉瓦製押湯の實用化取鍋煉瓦の現場的研究彈丸型特殊鑄型による特殊鋼製高壓容器の直接排出用鋼塊の製造等に數多の功績を樹てた。昭和17年和歌山に本邦最初の本格的ベンチユリー平爐の建設せらるゝやその製鋼課長として之が操業に努力し戦争末期の困難なる情勢下に於て特殊鋼の製造に高能率を出すことが出來た。終戦後昭和23年7月和歌山工場再稼働に當り酸性平爐を鹽基性平爐に轉換し逐次構造上の不備を改良し製鋼1時間當り造塊生産量も昭和23年10月8,100kg、昭和24年7月9,300kgと向上し、昭和24年11月下旬より10,500kgの實績を確保するに至つた。この成績は米國の同容量の平爐に

比し遜色なく平爐燃料として不利と目されて居る發生爐瓦斯を使用し、冷洗装入の平爐としては一時期を劃したる成績を挙げたものでこれは主として同君の不斷の努力によるもので我邦製鋼技術の發達に貢献するところ甚大である。仍つて同君は服部博士記念資金規則第 8 條に依つて服部資金を受ける資格充分なものと認める。

香村賞牌受領者

(平爐に於ける酸素の利用の研究並に平爐の構造の改良に關する功績)

尼ヶ崎製鋼株式会社 常務取締役

工學士 市田 左右一君

君は昭和 9 年九州帝國大學工學部冶金學科を卒業し、一時日本鋼管株式會社に入り製鉄部に勤務したが後尼ヶ崎製鐵株式會社に轉じ高爐の建設及製鉄作業に従事した。終戦後株式會社尼ヶ崎製鋼所に移り現にその常務取締役として勤めて居る。君は夙に燃料條件に恵まれざる我國では平爐の燃焼及溶解作業の合理化が特に必要であることに留意し酸素利用の必要性を唱へ率先して其の研究に着手し酸素製鋼の効果を明かにした。又平爐の装入扉が従來のものでは前壁に 3 乃至 5 箇あるが、同君は前壁全部を開閉し得る扉とする新形式の爐を考案した。この平爐の特徴は装入時間が短縮されること、装入物の大きさの制限の少いこと等の利點を有する。又天井は別の金具で支持してあり耐久性に不安がない。この爐は既に尼ヶ崎製鋼所の第 3 號爐として目下好成績を挙げつゝあり且つ米國技術者の賞讃を得たることは特に本邦技術の誇りであつて我國の製鋼上その功績極めて顯著である。仍つて同君は香村博士寄贈資金規則第 4 條により香村賞牌を受ける資格充分なものと認める。

香村賞金 (第 9 條適用) 受領者

(原田式交流磁選機の發明に關する功績)

日本磁力選鐵株式會社 取締役社長

工學士 原田 源三郎君

君は明治専門學校電氣科を卒業し、後更に九州帝國大學工學部冶金學科に入學し昭和 4 年之を卒業した。初め滿洲國本溪湖煤鐵公司製鐵部に入社し、現在は日本磁力選鐵株式會社々長になつて居る。本溪湖に於ては特に特殊鋼製造に貢献するところ多大にして貧鐵鐵より低磷選鐵採收の研究をなし遂に交流による磁選機を考案し本溪湖の貧磁鐵鐵に適用して高能率の磁選に成功した。従來粒鐵或は粉狀磁化物質の磁選には凡て直流磁選機を採用したるためその磁選機の缺點とする磁力を強大ならしむる程非磁性物質を抱込む作用となり如何に物質の比重の差及水流振動との共同作用を利用するも完全なる分離を

なましむるに困難であつたが本機發明の結果交流を使用するが爲め瞬間的に正負の磁場を生じ此れが爲め一旦抱込まれて居る非磁性物質と磁力線の方向變移する度毎に降下する。即ち磁力が常に選別に動くことは到底直流磁力の出來得ない作用であつて全く粉鐵選別上の大發見と云はざるを得ないのみならず今後此種の能率を高めることに依る諸種研究の容易及工業化の利點に盡瘁せる功績頗る甚大である。仍つて同君は香村博士寄贈資金取扱規則第 9 條により香村賞金を受ける資格充分なものと認める。

香村賞金 (第 9 條適用) 受領者

(特殊形鋼壓延作業の改善進歩に關する功績)

東都製鋼株式會社 取締役

製條部長 原田 德太郎君

君は大正 9 年 3 月合資會社宮製鋼所に入社以來勤続 30 年終始一貫壓延作業に専念した。此の間リム材、リムリング材、サッシュバー等複雑な壓延製品の製造に努力しその不撓不屈の努力と熱意とに依り常に困難な新型形鋼の壓延を完遂し得たことも全く君の努力の賜であり前記特殊形鋼類の壓延に關して宮製鋼所の名譽を高からしめ今日の東都製鋼株式會社の壓延事業の基礎を築いた君の技術と功績とは高く評價さるべきである。君は勤務に極めて精勵温厚篤實部下の信望厚く、部下の指導にあつては今日も猶現場に於て部下に率先直接壓延作業を指導督勵し克く後進の育成に當つて居ることは常人の謂ふべくして容易に實行し得ざるところである。君の如きは全く今日の日本鐵鋼壓延業界の至寶と稱せらるべく日本鐵鋼壓延技術の基礎を不動ならしめたものであつて業界の爲に貢献するところ甚大である。仍つて同君は香村博士寄贈資金取扱規則第 9 條に依り香村賞金を受ける資格充分なものと認める。

依賞受領者 技術優秀論文

北海道炭による高爐コークスの製造

[會誌鐵と鋼]
[昭和 24 年 9 月號]

日本製鐵株式會社輪西製鐵所

研究課 試験掛長 工學士 久田 清明君
同 試験掛員 太田 滿喜雄君
同 分析掛員 古 閑時 義君

渡邊賞牌受領者

(優良特殊鋼國産化に寄與したる功績)

新理研工業株式會社 取締役 技術部長

工學士 小 平 俊 雄 君

君は昭和 4 年東京帝國大學工學部冶金學科を卒業し後

昭和12年5月理研壓延工業株式會社に入社するやその製造部長となり次で昭和17年4月理研工業株式會社平井工場長に更に昭和24年2月同社東京金屬工業部長を経て現在に至る。斯くの如く君は永年理研關係諸工場にあつて帯鋼の冷間歴延事業に従事し、特に高級特殊鋼たるゼンマイ材、帯鋸材等を冷間歴延より熱處理成型に至る迄の一貫技術を確立し更に進んで理研工業會社平井工場に於てはロータリーキルンにて貧鐵處理によりルッペを作り此を原料として優良特殊鋼の電氣爐製鋼を行ひ從來スエーデン、英國或はオーストリア輸入材のみに依存せし前記ゼンマイ材、帯鋸材、カミソリ材等の素材製造に成功し一社内に於て原料より製品に至る完全なる一貫作業の體系を確立し目下要望されている輸出品の製造に寄與すると共に理研發條鋼業との提携により車輛用自動車ばね材の製造をも敢行しつゝあり、本年12月同社が新理研工業株式會社として新に發足するや君は推されて取締役技術部長となり同社技術部の總指揮にあたりると共に本邦特殊鋼及其の製品の製造技術の進歩發達に貢献するところ極めて顯著である。仍つて同君は日本特殊鋼株式會社寄贈取扱規則第4條により渡邊賞牌を受ける資格充分なるものと認める。

渡邊賞金受領者

(大型鋼材鍛造並に熱處理作業の改善進歩に関する功績)

株式會社日本製鋼所室蘭製作所製鋼部長代理
鍛鍊工場長兼鍛冶工場長 工學士 鍵和田暢男君

君は昭和11年3月京都大學工學部冶金學科を卒業後直ちに日本製鋼所に入社、室蘭製作所鍛造工場に勤務、専ら大型鋼材の鍛造作業に従事し今日に至つてゐる。其の間極めて積極的研究的に然も周到緻密な準備のもとに大型鍛造作業法の改善並に作業の能率化に献身的努力を傾け且つ優良な實驗を示した。その主なるものを挙げれば、鍛造加熱時間に就いて研究し、これを標準化し、昭和18年當時の鐵鋼工業會に於てこれを發表した。内筋類の盲目鍛鍊を實體鍛鍊に轉換して能率を向上し、又型入鍛造法を研究實施して餘肉の輕減材質の改善を計つた。その他大型中空材の口綾り作業法の確立等は其の主なる業績である。君は常に鍛鍊作業法の合理的簡略化を抱負としあらゆる方面に於てこれを實現し大なる功績を擧げてゐる。終戦後同所が民主品への轉換と同時に歴延、鍛冶、

熱鍊の作業が鍛造工場の管轄下に置かれるに至り人的物的凡ての惡條件のもとでよくこれが指導監督の任に當つて能率を擧げその間等温燒鈍法の實際化に努めその現場的研究成果を鐵鋼協會に發表した。又層狀鋼板の製造に成功し、大型曲肱軸の合理的製造法を立案して現下の要請に應へた。更に硬面ロールの鍛造法、燒入法を研究してその製造方式を確立した功績は極めて大きい。

斯くの如く君は鍛造作業全般に對して技術的並に學術的にその進歩發達に貢献する所甚大である。仍つて同君は日本特殊鋼株式會社寄贈資金取扱規則第5條により渡邊賞金を受ける資格が充分なるものと認める。

渡邊賞金受領者

(耐熱鋼その他の特殊鋼製造技術の進歩に関する功績)

新扶桑金屬工業株式會社

技術部長附 工學士 寺 町 忠 夫 君

君は昭和14年大阪大學工學部應用化學科卒業後直ちに扶桑金屬工業株式會社に入り同社鋼管製造所研究課に勤務し、昭和21年8月同所第二製管課長代理に任ぜられ更に昭和23年10月から本店技術部長附として現在に至つてゐる。此の間君が成した主なる研究業績をあげると鋼のアルカリ脆性に關する研究、汽罐用特殊鋼々管の研究、排氣タービン及ガスタービン用耐熱鋼の研究、酸素容器の改良、押出製管機用工具鋼の研究等多方面に亘つて居りその眞劍な努力と卓越した研究才能によつて夫々華々しい成果を收めて居る。特に排氣タービン及ガスタービン用耐熱鋼については尨大なクリープの實驗データから極めて優秀な材料が発見せられ、その中で、オーステナイト Mn—Cr—V 鋼は特許となつて居り、含窒素 Mn—Cr—V 鋼は我國に於ける含窒素高クリープ限耐熱鋼の先鞭をつけたものである。この成果に就いては日本鐵鋼協會第32回講演大會で發表してゐる。又第二製管課長代理時代には押出製管機用の熱間工具鋼について豊富な耐熱鋼に關する蘊蓄により着々その改良を計り、そのため著しく製管工具の使用量を低下することが出來た。そしてこの研究成果は日本鐵鋼協會第34回及第35回講演大會で報告した。斯くの如く同君の耐熱鋼等に關する業績は我邦の斯界發展に寄與するところ甚大である。仍つて同君は日本特殊鋼株式會社寄贈資金取扱規則第5條により渡邊賞金を受ける資格充分なるものと認める。